

当社社長の「2005年 新年挨拶」について

本1月4日、当社社長の高萩光紀は、2005年を迎えるにあたり、社員に対して新年の挨拶を行いました。
要旨は次のとおりです。

1. 昨年は原油価格の高騰や中国の飛躍的経済成長に伴う需給のタイト化等により、中間期においてまずまずの収益を確保することができたが、利益の大半は石化製品の好調と原油高騰に伴う会計上の在庫評価益に支えられたものであり、燃料油自体の利益レベルは満足できるものではない。ここへ来て原油相場の反落や円高による調達コストの低下、さらに暖冬の影響も加わり、市況は軟化傾向にある。下期の収益は予断を許さない状況にあり、気を緩めることなく全部門が力を合わせてコスト削減に取り組むようお願いする。
2. 当社は過去10年近くにわたり、守りに軸足を置いた経営諸施策を推進してきた。その成果はコスト競争力をはじめとした経営体質全般の強化という形で着実に顕れているが、業界におけるポジションを高め、将来に向けさらなる飛躍を期するためには、攻めに転ずることが不可欠である。当面の目標として掲げる利益シェア15パーセントを実現するためにも、収益構造の一層の改善が必要であり、来年度からはじまる17-19年度中期経営計画では、中長期的な収益力強化を目指した「成長戦略」への基盤づくりに取り組む。
3. 昨年4月に鹿島製油所の直接脱硫装置において発生した火災事故は、ジャパンエナジーグループにとって誠に残念な出来事であった。一步間違えば、はるかに深刻な事態に陥る危険性を秘めており、安全防災の確保は当社経営の根幹であることを改めて肝に銘じ、グループ一丸となって安全管理に万全を期すよう強く要請する。
4. 当社は、1月1日付で「CSR推進部」を設置し、コンプライアンスの徹底や社会貢献活動を総合的に推進する体制を整え、CSRへの取組みを一層充実強化する。役員・社員一人ひとりが基本理念のもとでコンプライアンスの徹底に取り組むとともに、諸活動に積極的に参加していただくよう期待している。

以上